



応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつないでいました。

誰もが安心して暮らせるまちを願う

RUN伴いばらき 9月22日



来日した生徒と神楽を披露した子どもたち

下妻第二高等学校ではクイーンズランド州インスフェイル高校と平成15年から交流しており、今回の来日は平成27年度以来3年ぶり3回目。来日した20人の生徒たちは下妻二高生徒宅にホームステイし、英語・書道の授業への参加や茶道などの伝統的な部活動を体験しました。

9月27日、生徒たちは大宝八幡宮を訪問し、拜殿で宮司から説明を受けながら参拝の作法を体験したほか、巫女装束の子どもたちが舞う「五行の舞」や「八幡の舞」の神楽を観覧しました。スマートフォンで撮影していた生徒は「下妻に来る前に東京を見学したが、日本の伝統文化に触れるのは初めてです」と声を弾ませていました。

豪高校生ら日本文化を体験

オーストラリアの高校生と交流 9月26日～10月1日

9月23日、第47回下妻市敬老福祉大会に会場する高齢者にニセ電話詐欺被害防止の呼び掛けと交通事故防止の啓発活動が行われました。

この啓発活動は、高齢者の交通事故防止に向けた県内一斉強化日に合わせて行われたもので、下妻警察署の協力のもと、市内交通団体等の関係者約30人が市民文化会館に会場する高齢者に交通安全・防犯グッズを手渡ししながら、ニセ電話詐欺被害防止と交通事故防止を呼び掛けました。

下妻警察署生活安全課の落合係長は「夕方、高齢者の交通事故が多いので、反射材の着用と早めのライト点灯、また、ニセ電話詐欺には注意してください」と話していました。



啓発グッズを受け取り入場する来場者

高齢者に詐欺・交通事故防止の呼び掛け

交通事故防止啓発活動 9月23日

下妻の南の玄関口・やすらぎの里しもつまの広場で、「下妻産新米まつり」が開催されました。地域ブランド米を目指すJA常総ひかりと下妻市担い手育成総合支援協議会が主催しました。

つきてたての下妻産コシヒカリとミルキークイーンの販売、食べ比べ試食会をはじめ、購入者には景品がプレゼントされ、市内外から家族連れなどでにぎわいを見せていました。

試食をした千葉縣市川市から訪れた60代の夫婦は炊き上がった新米を試食して「もちもちした食感でおいしい」と話し、ミルキークイーンを購入していました。



下妻産の新米を試食する来場者

香り立つ新米を食べ比べ

下妻産新米まつり 9月22日・23日



白装束姿の若者が炎を持ち境内を走り回る

白装束の若者が畳やたいまつを持って境内を走り回る炎の奇祭「タバカ祭」が9月12日と14日、大宝八幡宮で執り行われました。

祭りは拜殿での神事後、白装束の若者が境内で市内外から集まった人々を追いかけながら炎を舞い散らせていました。

この祭りは、約650年前に敷地内で起きた火災を畳と鍋ぶたで消し止めたという故事を戯曲化した祭りとして受け継がれ、タバカの名称は、畳や鍋ぶたをたたきつける際の「パタン、パタン」という音が由来になっているとされています。

千葉県から訪れた53歳の男性は「全国の火祭りを写真におさめている。パタン、パタンと叩きつける音と若者が顔を布で隠す特徴があってよい」と話してくれました。

伝統の火祭り、荒々しく

大宝八幡宮「タバカ祭」 9月12日・14日



花束をもらう山中さん

平成13年7月に開園以来、温水プール、トレーニングジムやお風呂などがあり市民などの健康づくりやレジャーに利用され、下妻市、八千代町、常総市、筑西市の4市町で構成される下妻地方広域事務組合が運営する「ほっとランド・きぬ」は8月31日に開園から17年で来館者300万人を達成しました。

当日、300万人達成を記念する式典が行われ、夏休み最後のプール利用に母親と来館し、300万人目となった山中昇瑛さん(田下・宗道小4年)は、スタッフから声を掛けられ突然のお祝いにびっくりしながら、記念のくす玉割をして、記念品や花束の贈呈を受けていました。

あいさつに立った菊池市長は「400万人目指していますますのご利用を」と利用者らに呼び掛けていました。

夏休み最後に突然のお祝い

ほっとランド・きぬ来館者300万人達成 8月31日



長寿の秘訣を話す飯田さん

敬老の日にちなみ、高齢者の長寿を祝う「第47回下妻市敬老福祉大会」が9月23日、市民文化会館で開催されました。

式典では県内男性最高齢者の飯田西之助さん(原・108歳)へのお祝いと日常生活などのインタビューがされました。飯田さんは「好き嫌がなく野菜をたくさん食べます。植物栽培が趣味で、育てているランをカメラで撮って鑑賞しています。家族が良くしてくれて幸せの絶頂です」と朗らかに長寿の秘訣を話してくれました。

また、芸能発表では市内の老人クラブや同好会、個人など33組が出演。集まった約400人は、日頃親しんでいる歌や踊りを披露し、鑑賞し合い、ステージ発表に合わせて一緒に歌ったり、シルバーリハビリ体操で体をゆっくり動かしてリラックスしたりと楽しいひとときを過ごしました。

下妻市では、平成30年度中に米寿の88歳を迎える市民が212人、100歳以上は29人となっています。

県内最年長男性 長寿の秘訣は

敬老福祉大会 9月23日



口上「ガマの油売り」を披露する苅部善吉さん(下栗)